【資格の大原　静岡校】

2025 年宅建士試験　合格者インタビュー

K ・ Y 様 （63 才）

2025 年　宅建士合格コース・入門パック
2025 年　宅建士試験合格

63 歳で挑んだ宅建士試験！定年後の「学び直し」が開いた新しい扉

「この歳になって、人生で一番真面目に勉強したかもしれません」――そう語るのは、63 歳で宅建士試験に見事合格した K·Y さん。定年退職後、再任用で働きながら、約半年間の勉強で一発合格を果たした。「60 才を過ぎてからの習い事のようなもの」と謙遜するが、その姿勢と努力は、年齢に関係なく挑戦することの素晴らしさを教えてくれる。
60 代以上のセカンドキャリアの準備をお考えの方、必見の合格体験記！

■受験の動機

―― 宅建受験を決意されたきっかけを教えてください。

K·Y　もともと仕事で不動産関係に近い業務をしていた時があったのです。そのため、兼ねてから不動産の知識は必要だなとずっと思っていました。定年を迎えて再任用になり、仕事のモチベーションの持ち方も今までとは違ってきた。貧乏症で何か目的を持って取り組んでないとなかなか落ち着かない（覚醒しない）質（たち）みたいで、これはちょっと何かに挑戦してみようかなと思ったのが宅建士受験の動機です。

―― 実は以前にも受験されたことがあるとか。

K·Y　ええ、20～30 年前に一度受けたことがあります。独学で。でもその時は試験を完全に甘く見ていて。仕事と並行してやっていたこともあり、その時、小手先じゃ無理だろうというの

を痛感しました。だから今回は、独学ではなくしっかり通って学ぼうと決めたんです。

―― 学習を始める前の不安はありましたか？

K･Y　やっぱりこの年齢になると、記憶力とか集中力とかいろんな面で劣ってくる。授業についていけるだろうかという心配はすごくありました。でも、大原の合格体験記を読んだら、みんな志たてて取り組んでるんだな、苦労してるんだなと。年配の方の合格体験記には、『初めは 30 分しか集中できなかった』とか。『ああ、確かに』と思って。勉強の習慣づけが大切だなと感じました。

■大原を選んだ理由

―― いくつかの予備校を検討されたそうですね。

K･Y　はい、静岡駅周辺の学校とかウェブでいろいろ見たり、実際に話を聞きに行ったりしました。

―― その中で大原を選ばれた決め手は？

K･Y　一番の決め手は、対面授業があることです。他のところに行ったら『来てもらって授業を受けてもらいますが映像ですよ』と言われたんです。映像じゃ結局、完全に受け身になってしまう。やっぱり知識、情報をインプットする刺激としても、対面で色々聞きながらの方がいいんじゃないかと思いました。実際に体験授業を受けて決めました。

―― 対面授業にこだわった理由は？

K･Y　前に受験した時の反省点として、やっぱりインプットに必要な刺激、モチベーション、それと学習の習慣化が必要だと感じていたんです。週 2 回通うことで勉強のリズムを作れるし、対面なら先生に理解できないとこを直接質問できる。『ああ、これはこういうことなんですか』みたいな話をその場で聞けるのが、学習の中で対話できるほうが良かったですね」

K･Y　週 2 回のペースで通えること、フォロー体制がしっかりしていること。それに時間帯も再任用の仕事の終業から直接通えるため、ちょうど生活リズムを作りやすかったです。でも何より、石田先生に初めにいろいろとお話を聞いた時、「この先生に教えてもらいたいな」と思ったんです。対面でこうやって教わった方がいいだろうなと。直観的なところもありました。

■学習方法と講師のサポート

―― 実際に受講されて、良かった点は？

K･Y　色々刺激になりましたね。やっぱりこの年になると記憶力など心配があるじゃないですか。それが、先生の授業の進め方がすごく良くて。時々時間的に詰まってしまうときもありましたが、授業と自学と勉強のリズムを作ることが出来たのが良かったです。

―― 石田先生の授業で特に印象に残っていることは？

K･Y　石田先生の本題に入る前の話――（落語の）枕というか、くすぐりというか(笑)。経験談を含めた四方山話がすごく印象に残るんですよ。先生がしきりに言っていた『まずイメージして、問題の法律関係の図を描け！』というのも良かったです。徐々に気づいたんですが、問題が出た時にパッと場面をイメージできないと問題を解く時間的にもダメなんですよね。民法の権利関係なら、どういう法律関係で、争点はどこか。それがイメージできないと知識も呼び起こせないし、ましてや問題も解けない。

K･Y　石田先生、プロだと思いましたよ。授業の『べしゃり』の勉強もしてるなと(笑)。いくつか暗記のゴロ合わせを教えてもらいましたが、いざという時、結構役にたつんですよ。これが！自分でもゴロ合わせを作ってみたりしました。先生のやつが面白くて。（法律の）殺伐とした勉強の中に一種の清涼感を感じられるようで、ファンになりました(笑)」

――　授業中に心がけていたことはありますか？

K･Y　授業を受ける中で分かってきたのは、何回か続けて石田先生が強調して言うところ、そこがポイントだなと。語り口がちょっと変わるところとか。特に権利関係は理解・難易度が高いじゃないですか。そんな時に基本的な民法の考え方を説いてくれたり「これは難所だから、これは項目的には枝葉のところだけど大事、これはこの項目の 8 合目だけどここ理解しておかないと、こういう考え方で」と教えてくれる。それがすごく頭に入ってくるんです。ポイント、勘所ですね。分からなくなった時、（ああ、先生こう言ってたから、こうだろうな）と思い出せる。

――　授業の録音もされていたとか。

K･Y　はい、ずっと石田先生の（録音した）授業を朝、通勤中に聞いてました。「今日は権利関係 物権の何回目です」という先生の声が耳についちゃって。（講座が終り）聴かなくなってから寂しくなりました(笑)

――　復習はどのように？

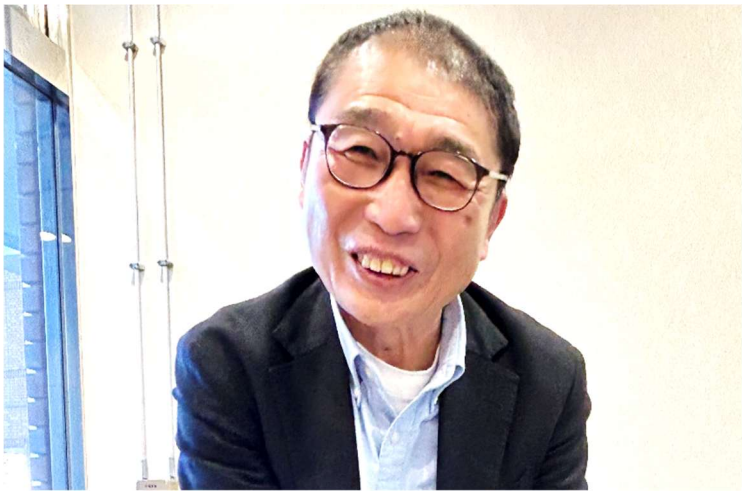
K･Y　授業を受けた日は帰って寝て、次の日の朝やるんです。次の授業までに 2 日あるじゃないですか。その間に問題集を廻すことを心掛けて、――基礎問題集ですね――とにかく 3 回ほどはやりました。大原の先輩の合格体験談を見ても、みんな『とにかく問題を解く』と書いてあったので参考にさせていただきました。

――　この厚い弱点補強ノート、すごいですね。

K･Y　先生が『間違ったところをまとめろ』と言ってたので。問題をやって、『これ分からない、何なんだろう』とか、『正解だと思ったけど間違っていた』という問題を整理して書いて。もう 1 回やったら覚えてるなって感じで確認する。これに書くことで頭の整理もでき、心も落ち着くんですよ。

――　モチベーションの維持はどうされましたか自習時間の記録『大原の合格シート』もしっかり書かれてますね。

K･Y　『大原の合格シート』を書くことがモチベーション維持にもなってました。書き続けていると習慣化されると思います。その他は先生が言っていた通り、合格のイメージを持つこと。私は学生時代、スポーツはラグビーをやっていたのですが、『プレーを頭に描かないことは実際にはそのプレーはできない。イメージできないプレーはできない』というのをよく監督、コーチ、ＯＢに言われてましたし、実際にそうなんですよね。



――　ご家族のサポートは？

K･Y　応援はしてくれてましたけど、娘、息子も含めて家族は厳しかった（笑）。特にうちの妻は、厳しいんですよ。『1 年で取れないなら絶対取れないよ。1 年で取っちゃわなきゃ！』って。（笑）いろいろな面で協力、応援してくれました。有難かったです。
でも、このプレッシャーはすごかったですね。だから 9 月からは禁酒しました。（笑）

――　えっ、完全に？

K･Y　試験まで飲まなかったです。会社の飲み会とか、オフィシャルな行事の時、そういう時だけは飲みましたけど、晩酌は完全にやめました。今その反動がすごいですけど（笑）」

――　職場には受験することを伝えていましたか？

K･Y　直接一緒に業務に携わっている限られた人にだけ伝えました。一緒に仕事をしている人とは、普段からそれぞれいろいろな面で気を遣いあっていることもありますから。上席には『宅建士試験受けるので』よろしくと。業務で色々融通を利かせてもらえたので助かりましたね。

■本試験の直前期と試験当日

――　直前期はどう過ごされましたか？

K･Y　8 月 18 日に初めて本試験の過去問題集を開けました（厚いやつ。通称『電話帳』）。丁度、2 ヶ月前ですね。それまで自分の実力がどれほどのものかと、ランダム問題は怖くて開けなかったんです（分厚いし）。やって全然ちんぷんかんぷん、ダメだったらどうしようって（笑）。

――　模擬試験はいかがでしたか？

K･Y　9 月の模試で洗礼を受けました（笑）。宅建業法が思ったより取れなくて。宅建業法はなんとかなるかなと思ってたところが、記憶が蘇ってこなかった。それから宅建業法の復習をもう一度やり直しました。

――　その時点での手応えは？

K･Y　半々でしたね。先生も言っていた通り、民法は“水物”のところがあり、どのレベルの問題が出るかによるなと。過去問をやり始めたら、問題にも癖があるのが分かってきました。『この過去問作ってるやつ、この年度の問題も作っている人と一緒だろうな』とか、『嫌らしいな、詐欺みたいな作り方してるなー』とか（笑）」。

――　試験当日の朝は？　会場には何時頃到着されましたか？

K･Y　やっぱり思ってた以上に張り詰めてましたね。今までにない緊張感でした。試験会場に着いたのは 12 時ちょっと過ぎぐらいですね。妻が『しょうがないねえ～、緊張してて駅のホームから落ちると、そのまま試験も落ちちゃうから（車で）送ってってやるよ』って（笑）車で送ってくれました。30 分ぐらい前に着けばいいと思っていたんですが、まだそんなに混んでいない時間でした」

――　会場では何をされていましたか？

K･Y　弱点補強のノートと単語カードを見てました。でも、周りの様子も観察してましたね。いろんな人がいるじゃないですか。『あの人は業界で働いてて、上司、会社からの命令で受けに来てるのかな』とか。先生が言ってた『とんでもない格好してくる人』もいましたよ。髪の毛がよく分からない状態で、ゴムで縛って留めたりしてて、スリッパ履きで。『この人、俺の近くに来てほしくないなー』と思ったら、右横の席でした（笑）」

――　試験が始まってからは？

K･Y　宅建業法から始めました。そしたら個数問題だらけで。20 問中 10 問が個数問題だったんです。『すげえなー』、『今まで過去問でも見たことなかった数だなー』と思って。個数問題は消去法が使えないから、ちょっと時間がかかりましたね。

――　ペース配分は崩れませんでしたか？

K･Y　ちょっと宅建業法に時間はかかりましたが、『まあ、こんなもんかな』と。いつも過去問やってた時も大まかな時間配分で調子のいい項目で調整したりして、最終的には民法だなと考えてましたし。民法は 4、5 問ダメかもしれないし、どうなるか分からないところだから（水物だから・・(笑)）、それよりも法令制限とか税法など。この辺が時間的にできなくなると嫌だなと思いました。

――　見直しの時間は？

K･Y　時間は少し余った感じはしましたが、はてなマークにしたところを見直すぐらいしかできなかったです。民法は最後まで迷いますからね。『これだ』っていうのがないから。もうちょっと権利関係も含めて極めないとダメだなと思いました。

――　試験終了の合図が鳴った時は？

K･Y　やりきった感はありましたね。詳細を見直すところまではいかなかったけど、ゴールテープを切ったみたいな感じでした（笑）。

――　試験後、自己採点はされましたか？

K･Y　やってないんです。先生に解答速報は『(インターネットの）どこにありますか』って LINE

で聞いて、ちょっと見たんですけど、面倒くさいやと思って(笑)。民法の問題を 2、3 問見たら、『やっぱりな。ちょっと違ってるなー。この調子じゃ（合格するか）どうか分かんないかな』という感じで。それでそれ以降見るのを（試験関係にタッチするのを）やめました。

―― その後は？

K･Y 試験直後、その足で夕方から飲みに行きました。早くからやっている居酒屋で、4 時頃から(笑)酒を断ってましたから。試験前に妻に『3 時で試験終わったら、即昼飲み行くからね』って言ってあったのです。そしたら妻も『私も晩ご飯をつくるのも、なんだから私も行く』って。本当は妻が飲みたかっただけですけどね(笑)一緒にハッピイアワーを満喫しました。試験の話は全くしませんでした。

■合格の瞬間と今後の展望

―― 合格発表当日はいかがでしたか？

K･Y 9 時半に仕事中でしたけど、スマホで見ました。ちょうど朝一の打ち合わせが終わった頃で、ドキドキしながら。『見ようかな、どうしようかな』って。でも見ちゃいましたね。

―― 番号を見つけた時の気持ちは？

K･Y 自分の受験番号がちょうど真ん中あたりにあって。『本当か、マジか』と思いました。でもほっとしましたね。『これで家族に顔向けができる。ちょっといばれるかな！（特に妻)』って(笑)

―― ご家族への報告は？

K･Y 妻は（私が報告するまで）知らなかったんです。その日帰宅して『宅建受かったよ』って言ったら、『すごいじゃん』って。『今日はお祝いに寿司を買ってきた』って私が言ったら、『何自分で寿司買ってきてんの』って（笑)。その場で乾杯しました。

―― 合格されて、一番大きかったことは？

K·Y すごく自信になりました。60 過ぎてからの習い事みたいなものでしたけど、今回が人生で一番真面目に勉強したんじゃないかなと。そして結果が出た。これは（これから新しいことをはじめる）何かのきっかけになるなと思いました。

―― 早速お仕事で活かされているとか。

K·Y はい、今まさに仕事で不動産取引に関する事をやっているんですが、役に立ってますよ。民法とか、地役権の話とか。『ああ、あそこもうちょっと勉強しておけばよかったな』と思うこともありますけど(笑)」今も教科書見直ししている時があります。

―― 今後の目標は？**

K·Y とにかく（宅建の資格を）活かしたいですね。仕事でもそうですし、何か人のために還元できる形にしたい。社会のためになるようにという事もそうですし、職場でも、何かあれば自分の知識で貢献したいと思っています。

■これから挑戦するシニアアクティブ層の方へのメッセージ

―― 最後に、これから受験される方、特にセカンドライフをお考えの年代の方へメッセージをお願いします。

K･Y　（セカンドライフを）チャンスとして捉えてチャレンジするということが大切だと思います。定年後って、どうしても仕事のモチベーションも変わってきますよね。気を遣わなきゃいけないところもあるし、物足りなさを感じることもある。でも、そこで何かチャレンジするというのは、ちょっと苦しいけれども、人生あらためて活性化するためにも良いことだなと思いました。

K･Y　野球で例えるなら、もう 6 回が終わったらあと 3 回じゃないですか。まだ 3 回も攻撃できるそのチャンスをどう捉えるか。私は宅建受験という機会そのものをチャンスと捉えました。環境的にも、大原との出会い、石田先生との出会い、同じクラスの皆さんとの出会い――そういうものがある。やっぱり具体的に動いてみる、チャレンジしてみるというのが大事だと思います。

――　６０代以降の方への勉強法についてのアドバイスはありますか？

K･Y　やっぱり人の話を聞くことですね。年を取ると、どうしても人の話を聞かなくなる。『バカッ!そんなこと十も承知。解ってるって！』とか言っちゃう(笑)。でも、先生とか教えてくれる、アドバイスをくれる人の力を信じること。自分の力を信じることも大事だけど、誰かが教えてくれることって、又、すごく大事です。

K･Y　それと、受験に対するポジティブなイメージを持つこと。ネガティブになると『これできなくて、あれもできなくて』となってしまう。でも『こんなの大したことはねえよ、最終的にホームランを打てばいいんだ』と考える。合格してガッツポーズをしている自分、祝杯のビールを飲んでいる自分。そんなイメージで。先生もよく言ってた『ワンチャンある』。受験ってチャンスじゃないかって・・・・・

K･Y　私もスポーツをやっていましたが、『イメージできないことはできない』『練習でできないことは試合でもできない』『でもワンチャンはある。ゾーンにはいることもある』と教わり体感もしました。だから、これから将来どういう状態にしたいのかを常にイメージする。常にそれをイメージしてトレーニングをする。そのことはとても大事なことだと思います。

――　具体的な学習のコツは？**

K･Y　石田先生に言われたこと――『問題を解け』。これに尽きます。(問題を解かずに）理解して覚えて、どんな問題が出てもなんとかなるというレベルまでいくのは難しい。だから、問題を解いて経験して、場面をイメージできるようにする。それしかないと思います。

――　最後にこれから宅建をめざす方に一言お願いします。

K･Y　チャンスという気持ちになって挑戦すること自体が、その気持ち自体捨てたもんじゃない

んです。私はたまたま成果が出ましたけど、実際に禁酒もできたし、生活のコントロール、家族との関係も深まった。宅建に合格した以上のものを得られたと思っています。だから、ぜひチャレンジしてほしいですね。

★　インタビューを終えて　★

K·Y さんの言葉からは、年齢を重ねたからこその謙虚さと、新しいことに挑戦する前向きな姿勢が感じられた。分厚い弱点補強ノート、びっしりと書き込まれた単語カード、詳細な学習記録――これらは努力の結晶であり、「素直に学ぶ」ことの大切さを物語っている。

63 歳での挑戦、そして合格。K·Y さんの体験は、年齢に関係なく学び直すことの価値、そして人生の新しい可能性を切り開く勇気を、私たちに示してくれている。大原の対面によるライブ授業、石田講師の熱心な指導、そして何より K·Y さんご本人の努力と工夫が、見事に実を結んだ合格ストーリーだ。

（インタビュー　2025 年 12 月 4 日（木）　場所：資格の大原　静岡校）

今後ますますのK･Y様のご活躍を祈念しております。

大原スタッフ一同